

手術前に撮影した骨盤・下肢の CT 画像写真の検討に関する 研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年3月19日～2020年3月31日

〔研究課題〕 高エネルギー外傷による骨盤・大腿・下腿骨折患者の術前 CT を用いた術後レントゲン写真上の整復成否に関連する要因の後ろ向き検討

〔研究目的〕 墜落や交通事故などの高エネルギー外傷により患者様が救命救急センターに来院されると、全身を調べるため CT 画像検査が行われるようになっていきます。特に骨盤や下肢の部分の骨折は、ほとんどの場合に全身状態が落ち着いてから手術を要する重大なケガの一つです。この骨折の手術による整復や固定が良好にできるのかを予測する目的で、術前に撮影した単純レントゲン写真を用いた検討はすでにいくつか報告されていますが、術前の CT 画像を用いた詳細な骨折型の分析と、術後の整復度合いに関係する要因の検討はこれまでほとんど行われていません。これらのことをふまえて、術前に撮影された骨盤や下肢の骨折の CT 画像を詳細に検討することにより、術後のレントゲン写真をもちいて整復程度および最終的な骨癒合に影響を与える要因を調査検討します。

〔研究意義〕 術前に治療が難しい骨折かどうかを判断できるようになれば、別の治療手段や異なった手術方法が選択されるようになり、患者様のよりよい治療方法が今後開発されてくると考えられます。

〔対象・研究方法〕 本研究の対象となるのは、帝京大学病院の救命救急センターまたは外傷センターに 2009 年 5 月から 2017 年 3 月までの 8 年間に搬送され、骨盤や下肢の骨折部の手術を受けた 16 歳以上の患者様です。すでに治療を受けられた患者様のみを対象とし、今後新たに搬送された患者様は対象としません。個人を特定できる情報を除外した形で、年齢、性別、受傷原因、骨折部位、開放骨折の有無、手術時期、術前 CT 画像上の粉碎程度や骨片の数、骨折線の関節内への伸展の有無、骨折線の形状を調査し、術後単純レントゲン写真上の残った転位量、骨折部の変形角度などのデータを登録します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部救急医学講座・同附属病院外傷センター

〔個人情報の取り扱い〕 データは匿名化（個人が特定できる情報を除外）した形で登録されていますので、個人が特定されることはありません。帝京大学でデータを分析する際は、研究代表者が責任をもってデータの管理を行います。データは研究目的以外に使用することはありません。研究成果は個人が特定できないような形で発表します。お申し出によりそれ以降の分析から個人データを除外することは可能ですが、お申し出時点より前の分析および発表済みの研究結果からの削除はできません。お申し出により診療上の不利益をこうむることはございません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：救急医学講座(外傷センター)准教授 鈴木卓

研究分担者：黒住健人(救急医学講座病院准教授)、石井桂輔(救急医学講座講師)、
松井健太郎(救急医学講座助教)、菱川剛(附属病院外傷センター非常勤医師)

住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL：03-3964-1211(代表) [内線 33129]